



### 香りの小部屋

梅栄堂にて記念撮影▶



ジェド・グラフ氏  
(写真右端)

1942年米国ニュージャージー州モントクレア生まれ。プリンストン大学在学中に、東京オリンピックの背泳選手代表として来日。2分10秒3の世界新記録で金メダルを獲得。心理学博士。カナダのトロント大学で教鞭を取った後、広い知識と経験を生かし多方面で活躍。現在、IPM-SOFTWARE社重役他。1987年にはISHOF(国際水泳殿堂)入りを果たした。



### 夢をかなえてくれた旅

ジェド・グラフ

お線香は禪でもとても大切なものです。

一九六四年東京オリンピックに、アメリカの水泳の代表選手として参加してから約四十年、今回アメリカ、カナダ、コスタリカの三つの禅センターから四十一人のメンバーが集まり、仏教の霊所を巡る巡礼の旅として、かねてから念願であった、日本に戻ってこることが出来たのです。私達の家族を含め何人かは一足早く日本に到着し、その後他のメンバーと合流することになっていました。

私はこの旅でも一つ大きな目的を持っていました。それは、禅センターで長年使っているお線香の「好文本」に大変興味があり、と

二メートルあるのですが、当時はよく振り返られたのを見ていますが、今はもうそんなことはありません、それだけ日本人の身長が大きくなったのと、西洋の人が日本に来る機会が増えたという事でしょうか。当時はアメリカと日本の文化に大きな違いを感じていましたがその後、禅に出会い、経験したことにより、今回の旅ではより日本が馴染み深く感じられ、そんな自分に驚いています。それから、今回特に感じたことは、環境は変わっても、日本人の心遣い、清潔さ、規律正しさ、礼儀正しさ、そして素晴らしい芸術的な伝統は、今も変わらずなく生き続けているという事です。

職人の「手」と「心」に感動しました。

工場見学をする前は、お線香も最新式の

■四十年前、東京オリンピックにアメリカの水泳選手として日本を訪れたジェド・グラフさん。その後、日本への再訪を待ち望んでおられたということ。今回久しぶりに訪れた、日本の印象はいかがだったのでしょうか。

りわけその製造工程を知りたくて、ぜひとも工場を見学したいことを梅栄堂にお願いしていました。当日は中田恭三朗氏が我々を最寄り駅まで出迎えてくれました。本社では中田会長、中田社長に紹介され、原料となる香料の話などを伺いました。そしてその後工場へと案内されたのです。今回の旅行で一番重要で、かつ印象に残った事の二つが、中田氏に案内してもらった梅栄堂での工場見学ですが、その話に入る前に、二度の旅を振り返り、それぞれの旅で感じた日本の印象について少しお話ししたいと思います。

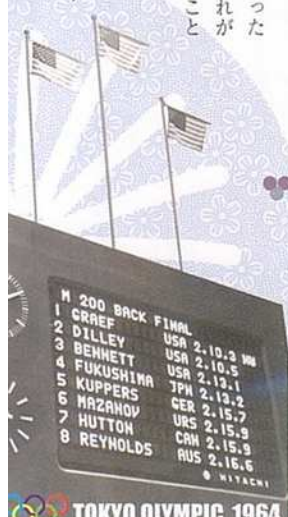
日本人の心遣いは、今も変わりません。

先程もお話したように、私が前回日本を訪れたのは二十歳、東京オリンピックの時でした。ホスト国としての日本は最高テクノロジーで、すべてが機械工程で製造されるのかと思っていました。もちろん、原料を砕いたり、混ぜたりするには機械が使われていたけれど、高級なお線香は、大部分が伝統的な方法で作られているのを知った時は、驚きであるとともに、伝統の素晴らしさを実感しました。その工程のすべては、我々の環境の中ではほとんど見ることができないような、細心の注意が払われたもので、お線香に対する職人の方たちの愛情の深さに心を打たれました。作業はすべて正確に進められ、特に乾燥の前にお線香を整える姿はたいへん優美なものでした。中田さんの勤めで娘も試させてもらったのですが、簡単なように見えて、それがいかにもずかしいものであるということが、見ていてすぐわかりました。禅センターで日々、また特別の儀式にも使用しているお線香には敬意を持っていましたが、今回の経験から、

で、セレモニも競技もすべて順調。中でも五千人が一様に住んだ選手村は最高で、国々間の小さな政治的な違いを忘れて、それぞれが素晴らしい友情関係を結べたことは忘れられません。私の出場した二百メートル背泳では予選を含め三日間泳ぎ、決勝は十月十三日に行われ、またそのプレッシャーから開放された時、余裕をもって日本を観察できたように感じました。

当時、オリンピックを前にして新幹線が既に開通し、世界的にもたいへんな話題になっていました。オリンピックのためには日本初の高速道路も完成していましたが、まだほんの一部だったと記憶しています。現在では新幹線も増え、高速道路網が張りめぐらされ、どこに行くのにも移動がスムーズになりました。都市には高層ビルが立ち並び、道行く人の服装も現代的になったように感じます。個人的に感じる事としては、私は身長が

より強いものになりました。私達禅をするものにとって、大切なお線香のために努力していただける梅栄堂と社員の人々に本当に感謝しています。好文本が特別なお線香であることを日頃から感じていたのですが、その秘密は原料だけでなく、それに職人の人たちの「手」「心」が加わって初めて生まれることがよくわかりました。本当にどうもありがとうございました。



TOKYO OLYMPIC 1964